平安神宮周辺エリア

~近代建築群•西寺町通•金戒光明寺•真如堂•疏水~

522

視点場 (境内)

_

特に着目する通り

視点場 (参道等)

(白線) エリアの主な通り

エリア概要

- 岡崎地域は、黒谷南麓ろくに岡崎の集落が見られる程度であった。
- 明治23年には京都の殖産興業策として実施された京都疏水が開設した。
- その後、明治28年の内国勧業博覧会の開催や建都1100年を記念しての平安神宮の創建、その後の岡崎公園の整備などを契機として次第に市街化が進んでいった。このように岡崎・南禅寺地域は、社寺などにより歴史的環境を醸し出している地域であるとともに、京都の近代化の一翼を担ってきた地域でもある。

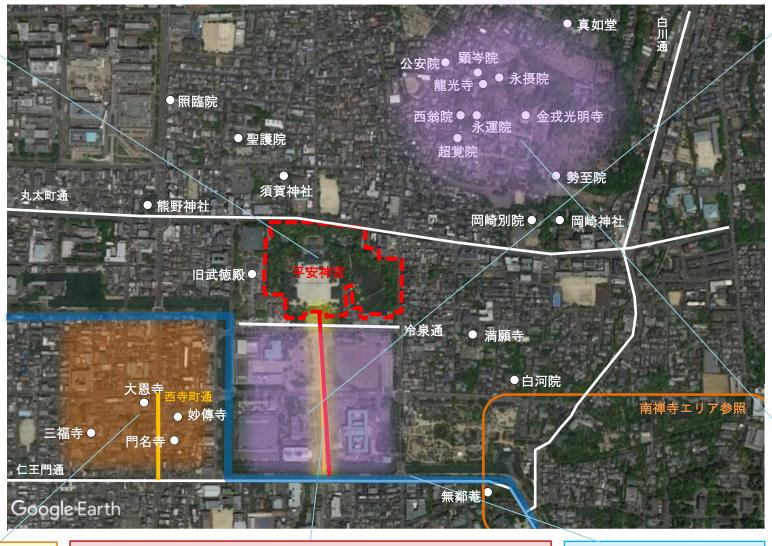
平安神宮

明治28年(1895)平安奠都千百年祭に際し、京都市民の氏神として新たに創建された。回遊式庭園は、平安神宮神苑として国の名勝に指定されている。1)

境内からは、東山を望むことができ、 建築物と樹木、その背景によって構 成された景観が見られる。







西寺町通周辺の寺社の集積

東大路通に出る手前を南北に走る通りは、西寺町と呼ばれ、寺町通にあった寺院が続々と引っ越してきた。²⁾

現在も、通りの周囲一帯に寺社の集積した景観が見られる。



西寺町通

神宮道

平安神宮の創建後、明治32年(1899)12月に平安神宮参道として、慶流橋と応天門を結ぶ、白河街区の軸線から振れた神宮道が通された。³⁾松並木が連なり、近代建築の屋根が作る揃ったスカイラインが特徴的である。平成26年に策定した「左京区岡崎における神宮道(冷泉通~二条通)と公園の

平成26年に策定した「左京区岡崎における神宮道(冷泉通~二条通)と公園の再整備基本計画」に基づき、歩いて楽しい岡崎のシンボルとなることを目指して、神宮道の一部を廃止して公園とする再整備工事を行い、平成27年に完成した。





琵琶湖疏水

明治23年(1890)の琵琶湖疏水の建設は、沿線の土地利用に大きな変化をもたらした。4)橋から見える東山との一体的な景観が特徴的である。



近代建築、岡崎公園

明治28年の内国勧業博覧会終了後、 区画に沿って、各種の公共施設が設 置されるようになり、現在は岡崎は博 覧会場から文化ゾーンへと移行した。



京都市美術館



岡崎公園

景観の核となる黒谷南麓ろくの 緑と寺社

金戒光明寺と塔頭群、真如寺一帯は、東山を背景に相互に近接する共通性を有しつつ、それぞれの規模や歴史性と黒谷南麓ろくの緑が相まって、シンボリックな景観となっている。



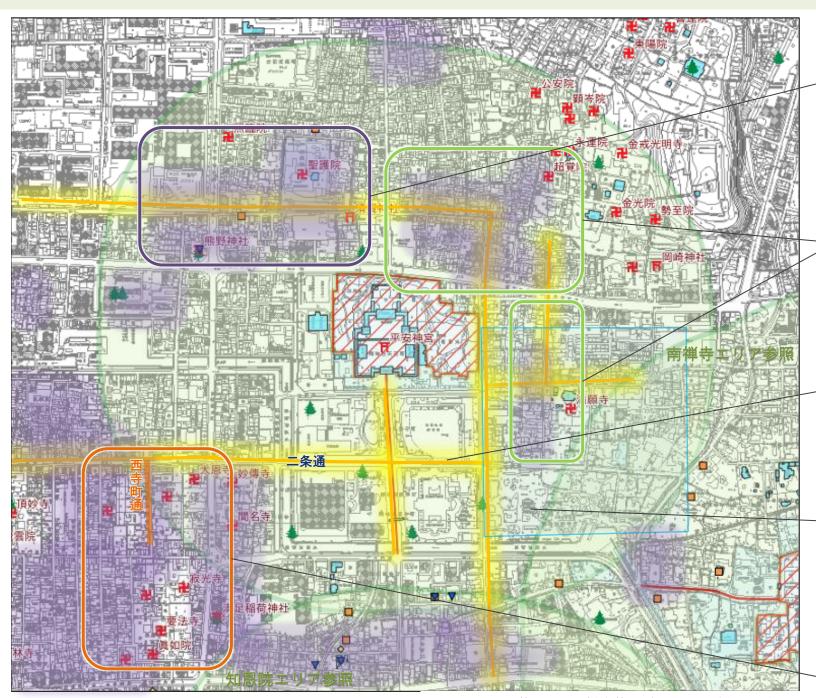
金戒光明寺



直如堂※

※: (写真提供)京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

エリアの概要



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

聖護院周辺

中世以降、岡崎の畑地の東、北を縁取るように、 形成された、聖護院村は、白河街区の条坊に 沿った街村の形態をとっている。⁵⁾

現在も、聖護院周辺の一体的な景観を形成している。



聖護院周辺

満願寺・岡崎神社周辺

中世以降、岡崎の畑地の東、北を縁取るように、 村落が形成された岡崎村は、白河街区の条坊に 沿った街村の形態をとっていた。⁶⁾

満願寺周辺の南北の通り周辺も市街化が早く、 ところどころ古い建物が見られ、落ち着いた景 観を形成している。



満願寺周辺

白河街区跡

白河街区の条坊は、現在の地割にもよく現存している。東西道では、主要道路である二条通が現在もよく踏襲され、聖護院の東西道も残る。条坊は基本的に残存している。⁷⁾

六勝寺跡

寂寥とした白河の地で、1077年に白河天皇(1053~1129)による御願寺・法勝寺造営が始まった。これを皮切りに、のちに法勝寺と合わせ六勝寺と総称される5ヶ寺が次々建立されていった。8)

現在、高さ80mを超えていたという法勝寺八角九重塔の特異な基礎 地業の上に京都市動物園の観覧車が建っている。⁹⁾

西寺町通周辺

東大路通に出る手前を南北に走る通りは、西寺町と呼ばれ、そこには宝永5年(1708)の京都大火以降、寺町通にあった寺院が続々と引っ越してきた。

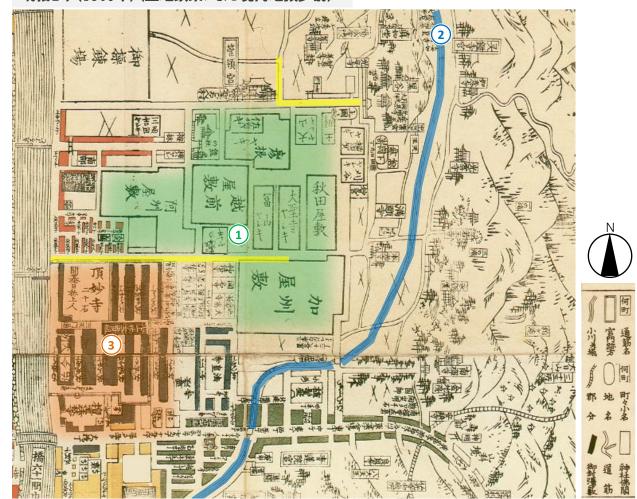


西寺町通

現在も、通りの周囲一帯に寺社の集積した景観が見られる。 ¹⁰⁾

エリアの土地利用の変遷(1)

明治2年(1869年)(上地政策による境内地減少前)



京町御絵図(明治2年)

〇 白河と六勝寺

「岡崎村」はかつては、「白河」とも「上粟田」とも呼ばれていた。この白河の地は古くは藤原良房(白川大臣、804~872)以来、藤原家が別業を営んできた人里離れた寂しいところであった。

この寂寥とした白河の地で、1077年に白河天皇(1053~1129)による御願寺・ 法勝寺造営が始まった。これを皮切りに、のちに法勝寺と合わせ六勝寺と総称される5ヶ寺が 次々建立されていった。¹¹⁾

① 幕末の藩邸建設

京都が政治都市化した幕末には、岡崎の畑地を利用して加賀藩、阿波藩等の大規模な藩邸が建設され、岡崎村が空地のないほどに埋め尽くされた。¹²⁾

② 白川

江戸時代までは白川がこの地を潤し、園池や畑作、あるいは手工業にその水が利用された。13)

③ 西寺町通周辺

東大路通に出る手前を南北に走る通りは、西寺町と呼ばれ、そこには宝永5年(1708)の京都大火以降、寺町通にあった寺院が続々と引っ越してきた。寂光寺、専念寺などは宝永の大火以降の移転寺院である。¹⁴⁾

明治25年(1892年) W. Caller (6)

近景デザイン保全区域

特に着目する通り

資料: 仮製地形図(明治中期)(国土地理院所蔵) 画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

視点場(境内)

4 白河街区が残る通り 二条通・岡崎通等

白河街区の条坊は、現在の地割にもよく現存している。東西道では、主要道路である二条通が 現在もよく踏襲され、聖護院の東西道も残る。南北道は、旧法勝寺西縁の法勝寺車道が「広 道」としてそのまま残る。すなわち条坊は基本的に残存している。¹⁵⁾

⑤ 岡崎村·聖護院村

中世以降、岡崎の畑地の東、北を縁取るように、村落が形成された。後の岡崎村と聖護院村である。いずれも白河街区の条坊に沿った街村の形態をとっている。白河街区の中心が畑地となり、集落が周縁部に位置するのは、六勝寺が存立している間に集落が徐々に形成され、六勝寺と入れ替わるように畑地が発達していくということを示すものであろうか。¹⁶⁾

⑥ 幕末の藩邸建設

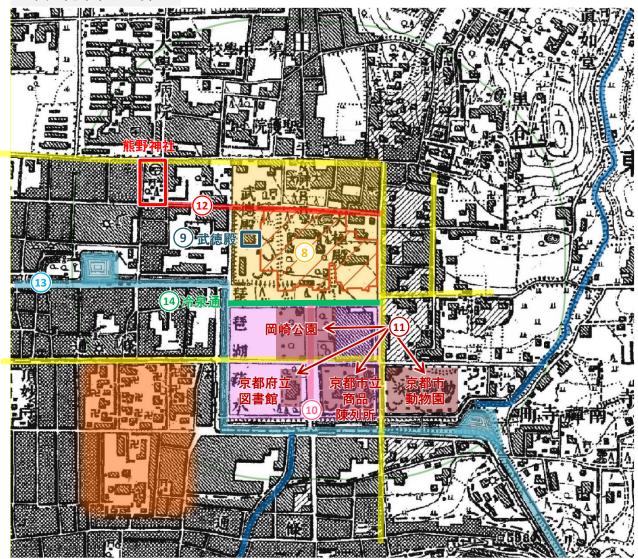
明治初期には再び藩邸が撤去され、畑地に戻る。 17)

⑦ 満願寺

満願寺周辺は既に市街地化が進んでいる。

エリアの土地利用の変遷(2)

大正元年(1912年)



資料:正式地形図(大正元年)(国土地理院所蔵) 画像:立命館大学アート・リサーチセンター

⑧ 内国博覧会・平安神宮の設立

明治政府が海外の万国博に学び、国内の殖産興業を目的として開いた博覧会。第四回は平安奠都 千百年を記念して、明治二八年に、当時野菜畑と雑木林が混在した岡崎町で開かれた。¹⁸⁾

明治二八年に、平安神宮が隣接して創建され、この建築群は、もともとは平安京の大極殿を復元し、上記の平安奠都千百年祭の記念殿として計画されたものが、途中から桓武天皇を祀る神社 創建のための社殿に変更され建設されたものだった。¹⁹⁾

9 旧武徳殿

平安神宮の東に、平安神宮創建の4年後の明治32年(1899)に、武徳殿として建てられた 寺院のような建物であり、わが国伝統の建築意匠の建築物である。²⁰⁾

⑩ 神宮道

岡崎周辺に近代に施された地割の中で、明らかな振れを持つのが神宮道である。この振れが生じた原因については、博覧会場の造成と平安神宮造営の経緯の中にみいだすことができる。

明治28年(1895)に開催された平安遷都千百年記念祭及び第四回内国勧業博覧会博覧会場敷地は、南、西は疎水により規定されるものの、他は概ね既存の地割を継承して設定された。 祈念殿の位置がまず定められ、そこに合わせて施設や門が配置された結果、周囲の地割と微妙なずれが生じた。

その後、明治32年(1899)12月に応天門前の冷泉通から疎水慶流橋までの間の市有地が風致保存のために官有地となり、平安神宮参道として、慶流橋と応天門を結ぶ、白河街区の軸線から振れた神宮道が通された。²¹⁾

平成23年に策定された「岡崎地域活性化ビジョン」の取組のひとつとして、平成26年に「左京区岡崎における神宮道(冷泉通~二条通)と公園の再整備基本計画」を策定した。この基本計画に基づき、歩いて楽しい岡崎のシンボルとなることを目指して、神宮道の一部を廃止して公園とする再整備工事を行い、平成27年に完成した。

① 京都府立図書館、京都市動物園、岡崎公園の開園

明治28年の内国勧業博覧会終了後は、常設の博覧会場が作られ、毎年のように各種の博覧会が開催された。しかし、その会場計画は、現在の二条通、神宮道を中心に区画される敷地割にしたがうようになる。そして、しだいにその区画に沿って、各種の公共施設が設置されるようになり、岡崎は博覧会場から、いわゆる文化ゾーンへと移行していくのである。

まず、明治36年(1903)に、東宮(大正天皇)の成婚紀年として、京都市立紀年動物園が内国勧業博覧会の動物館の跡地に開設された。それにともない、岡崎の博覧会会場の大半が講演として指定されることになる。(開園は明治37=1904年)そして、明治42年(1909)に京都府立図書館が建てられ、翌年には、その東側の現在の京都市美術館の敷地に、市立商品陳列所が設置された。

⑫ 丸太町通

明治27年(1894)に熊野神社境内を貫き、東に延長された。22)

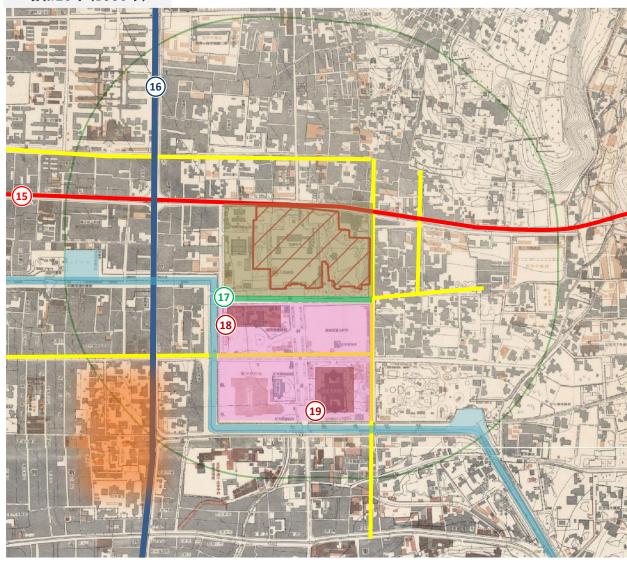
③ 琵琶湖疏水

一面農村風景であった岡崎の景観は、明治23年(1890)の琵琶湖疎水の建設により、沿線の土地利用に大きな変化をもたらした。²³⁾

(4) 冷泉通

開設は明治23年の疏水開通や同28年の平安神宮設立以降である。24)

昭和28年(1953年)



昭和10年都市計画図の内容

昭和28年の修正測図

資料:京都市都市計画基本図(昭和28年) (京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号))

画像:立命館大学アート・リサーチセンター

⑤ 丸太町通

大正元年の市電開通に合わせて、大正2年(1913)には、開削・拡幅された。25)

16 東大路通

大正元年の市電開通に合わせて、開削・拡幅された。26)

① 冷泉通

開設は明治23年の疏水開通や同28年の平安神宮設立以降である。27)

18 岡崎公会堂

京都市が市民の集会場所として、大正6年(1917)6月に、岡崎公会堂を岡崎公園内に建設した。昭和9年の室戸台風で倒壊し、現在の建物は、同4年5月に焼失し翌5年8月に再建された東会館で、京都会館の別館に使用されている。²⁸⁾

19 京都市美術館

大正8年(1919)に陳列所と第一勧業館を撤去して、京都市美術館が完成した。29)

※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3、000)を参考にし、作成したものです。

平安神宮境内の歴史的資産と守っていきたい眺め(1)

平安神宮

岡崎公園の北に位置する。明治28年(1895) 平安奠都千百年祭に際し、京都市民の氏神として新たに創建された。祭神は桓武天皇・孝明天皇。旧官幣大社。創建は同25年に経済学者田口卯吉の進言により市会で可決され、同26年9月2日に地鎮祭が行われた。翌27年7月1日に立柱式が営まれ、同2日に平安神宮と称し官幣大社に列せられることが決定(平安遷都記念祭記事)、同28年2月25日に竣工(京華要誌)。同年3月15日に鎮座式が挙行された(日出新聞)。総社域二万二千坪。

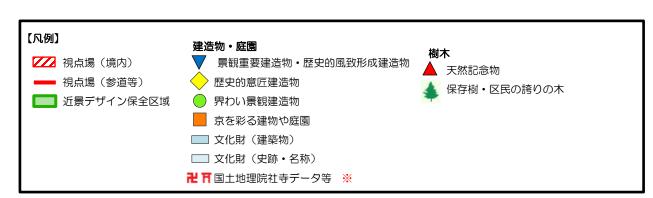
社殿は碧瓦丹塗で平安宮大内裏を約八分の五に縮小、模造したもので、木子清敬・伊東忠太の設計である。神宮道に建つ大鳥居(昭和3年完成)正面の二層の楼門は応天門を模し、白砂敷の奥に大極殿を模した拝殿、拝殿左右に歩廊で連なる蒼竜楼(東)・白虎楼(西)を配し、奥に素木造の本殿二棟が建つ。

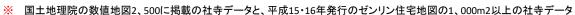
背後には明治28年に岡崎で開催された第四回内国博覧会の東方美術館跡敷地を利用した約六 千坪の回遊式庭園がある。平安神宮神苑として国の名勝に指定されている。東・中・西の三 庭からなり、造園家小川治兵衛の手になる。

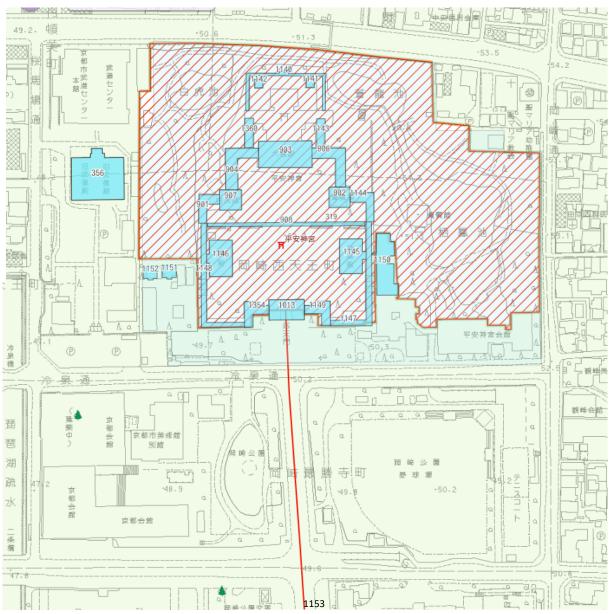
現在葵祭・祇園祭とともに京都三大祭の一として知られる時代祭は、平安神宮の祭礼である。 なお本殿は昭和51年正月に焼失。同54年春再建された。³⁰⁾

■ 文化財

国指定重要文化財	旧武徳殿	356	蒼龍楼	902	大極殿	903
	西歩廊	904	東歩廊	906	白虎楼	907
	附 龍尾壇	908	應天門	1013		
国登録 文化財	透塀及び後門	1140	東神庫	1141	西神庫	1142
	内廻廊(東)	1143	南歩廊(東)	1144	神楽殿	1145
	額殿	1146	東門及び東外廻廊	1147	西門及び西外廻廊	1148
	神門翼廊(東)	1149	斎館	1150	東祭器庫	1151
	西祭器庫	1152	大鳥居	1153	南歩廊(西)	901
	内廻廊(西)	1360	神門翼廊(西)	1354		
国指定名勝	神苑	319				







※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

平安神宮境内の歴史的資産と守っていきたい眺め(2)

[国指定重要文化財]



旧武徳殿※



蒼龍楼



大極殿



西歩廊



東歩廊



神苑



白虎楼



附 龍尾壇



應天門





透塀及び後門※









内廻廊(東) ※



南歩廊(東) ※



神楽殿※





額殿※



東門及び東外廻廊※



西門及び西外廻廊※







神門翼廊(東)



斎館※



東祭器庫※



西祭器庫※



大鳥居※



南歩廊(西)※

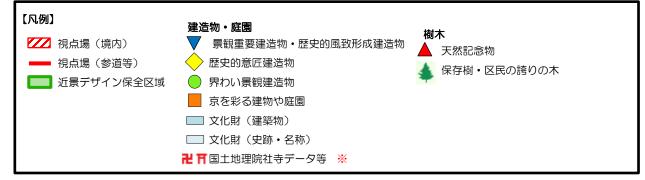


内廻廊(西)※



神門翼廊(西)※

※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。



※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

■ 聖護院

[重要文化財(書院)、国指定史跡(聖護院旧仮皇居)]

黒谷の東、平安神宮の北に位置する。円珍の草創になる天台宗門宗の門跡寺院であり、本山修験宗の大本山を兼ねる。本尊不動明王。聖護院旧仮皇居として国の史跡に指定されている。³¹⁾



聖護院旧仮皇居※1 国指定史跡

■満願寺

[市指定文化財(本堂等)]



本堂等 市指定

満願寺本堂は宝永元年(1704)までに造営されたもので、市内に残る日蓮宗の一般寺院本堂としては古い。桁行3間・梁行1間の身舎の周囲に1間幅の裳階をまわして背面に内陣部を突出し、その後方に土蔵造の奥陣を付設した複合建築である。境内には鐘楼、手水舎・表門・文子天満宮本殿・同拝殿などが残っており、江戸時代中期における日蓮宗の一般寺院の寺観をよく伝えている。

■ 白河院庭園

[市指定名勝]



庭園 市指定

白河院庭園は7代目小川治兵衛(植治)によって手がけられたものであり、呉服業を営んでいた下村忠兵衛の所有となった翌年の大正8年(1919)に竣工した。造営当初は、東山を背景とする庭園に面して、二階建ての和館と洋館が南北に並立していた。洋館と和館の一部は昭和33年(1958)に取り壊されたが、その際にも庭園部分は殆ど改変を受けなかった。庭園は南北に細長い園池を中心とし、園池の東半周を囲む築山上に群植されたアカマツやイロハモミジ越しに、東山を望む大らかな敷地構成をとり、建物との間には明るい雰囲気の芝生広場が広がる。東山の眺望を活かした、植治の円熟期の技が随所に現れた貴重な庭園である。

■ 真如堂



黒谷の北に位置する。天台宗、鈴声山と号する。正式には真正極楽寺と称し、本尊阿弥陀如来。大永4年(1524)に真如堂住持昭淳が画工掃部助久国に命じて作成した真如堂縁起によれば、開基は比叡山延暦寺戒算で、永観2年(984)一条天皇の母東三条院藤原詮子の御願により、延暦寺常行堂にあった阿弥陀如来像を神楽岡(吉田山)の東にあった女院離宮に移し、正暦3年(992)に寺としたのが起源という。32)

X

※1: (画像)京都府地図情報統合型地理情報システム (GIS) ※2: (写真提供)京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

平安神宮周辺の歴史的資産(2)

■ 金戒光明寺

[重要文化財(西扇院茶室等)、府指定文化財(阿弥陀堂等)、国登録文化財(御影堂等)]

紫雲山と号する浄土宗寺院。本尊阿弥陀如来。俗に黒谷の名で知られ、かつては京都知恩院、 清浄華院(現京都市上京区)、百万遍知恩寺(現左京区)とともに、四ヵ本山の一であった。

寺伝によれば所在地はもとは栗原岡といい、比叡山延暦寺の寺領で白河禅房の旧地と伝え、 比叡山黒谷の叡空のもとにあった源空(法然)が師よりこの禅房を譲られ、念仏道場としたの が草創という。比叡山黒谷に対し、新黒谷とよばれているが(東北歴覧之記)、今日では単に 黒谷の名をもって称せられる。

金戒光明寺は桜の名所としても知られた。

塔頭は松樹院・光安寺・永運院・蓮池院・西雲院・西翁院・金光院・長安院・龍光院・栄摂院・顕岑院・瑞泉院・善教院・超覚院・西住院・上雲院・浄源院・勢至院・常光院がある。33)



阿弥陀堂※1 府指定



鐘楼※1 府指定



山門※1 府指定



経堂※1 府登録



御影堂※1 国登録



人力义 国登録



国登録



築地塀 国登録

金戎光明寺 塔頭

西翁院



西翁院

永運院



永雲院表門 重文

■ 京都市美術館(京都市京セラ美術館)



昭和8年開館。京都で行われた今上上皇の即位大典を記念して、 寄付金により建設。発足時は大礼記念京都美術館と称し、同21年 から駐留軍が接収、同27年に京都市美術館となった。³⁴⁾

約2年に及ぶ改修工事を経て、令和2年3月21日にリニューアルオープンした。正式名称は京都市美術館であるが、リニューアルオープン後の愛称は、京都市京セラ美術館である。令和2年8月17日には、登録有形文化財に指定された。

■ 京都会館(ロームシアター京都)



左京区岡崎町最勝寺町にある京都市の総合的文化施設。国際的な会議も行う。地上三階、地下一階で約2400名収容の第一ホール、約1000名収容の第二ホールと約400名収容の会議室のほか、5つの会議室がある。設計は前川国男。昭和33年7月着工し、35年4月に開館。建設の財源は起債を主とし、その償還は文化観光施設税をあてた。隣接して昭和5年8月建設の別館(旧岡崎公会堂)がある。2011年9月に「京都会館の命名権に関する契約」を締結し、この命名権対価を利用して再整備を行った。2016年1月10日に「ロームシアター京都」と名称が変更された。35)

■ 旧岡崎公会堂



昭和9年の室戸台風で東海。現在の建物は、同4年5月焼失し翌5 年8月に再建された束館で、京都会館の別館に使用。³⁶⁾

■ 京都府立図書館



明治15年、集書院閉鎖後、同23年に設けられた京都府教育界附属図書館が同33年に閉鎖したので、同42年現在地に新築移転。³⁷⁾

■ 京都国立近代美術館



昭和38年4月、旧京都勧業館別館を改装して開館。初めは国立近代美術館(東京)の京都分館とし、工芸中心の展観を企画したが、現在は近代美術全般にわたり各種の展覧会を催す。昭和42年独立して現名となる。³⁸⁾

平安神宮周辺のその他の歴史的資産

■ 岡崎別院



左京区岡崎東天王町にある東本願寺の別院。宗祖親鸞が承元元年(1207)の越後配流より帰洛後ここに住んだといい、親鸞屋敷とも俗称。享和元年(1801)本願寺二〇世達如が寺とし、岡崎御坊と呼ばれた。境内西にある庭園は風趣に富み、華頂山晴雪など佳絶八景がある。本堂西の鏡池は、親鸞が越後配流の際その姿を写したといい姿見池の名がある。³⁹⁾

■ 岡崎公園



左京区岡崎にある京都市営の総合公園。都市公園法に基く都市 基幹公園。明治28年に開催された第4回内国勧業博覧会敷地跡に 同37年解説。面積10万3101平方メートル。平安奠都(てんと) 1100年紀念祭で造営された。平安神宮に接する。⁴⁰⁾

■ 景観上重要な建築物、庭園等

川端彌之助のアトリエ

「京都を彩る建物や庭園」

洋画家である川端彌之助(1893~1981年)のアトリエとして大正14年(1925)に建築。愛用のイーゼルや書籍がそのまま残され、当時の様子を今に伝えている。





18

川端彌之助アトリエは、戦前から戦後にかけて京都を中心に活躍した洋画家・川端彌之助がフランス留学より帰国後の大正14年(1925)に建てたアトリエ兼住居の建物である。敷地は聖護院北側の道路に南面し、建物は、木造2階建セメント洋瓦葺で、基礎を煉瓦造りとし、外壁は、モルタル仕上げ(一部サイディング)、急勾配屋根の南側妻面にハーフティンバー風の意匠を備える。内部は、1階にアトリエのほか2室の応接室と台所、2階は寝室、子ども室、着替え室を配し、天井、壁共に漆喰塗で、玄関床のタイルや階段手摺のデザインなどは洋風仕上げとなっている。アトリエは2層分の吹き抜けとし、安定した照度を求め、北面採光を取り入れた高窓を備える。川端彌之助アトリエは、室内の構成や仕上げのほか、照明器具など建築当初から残っている部分が多く、大正末期のアトリエのある住宅として希少であるとともに、聖護院界隈の歴史を伝える重要な建物である。

聖護院八つ橋

[京都を彩る建物や庭園]

元禄2年(1689)にこの地で創業した。近世筝曲の開祖といわれる八橋 検校が葬られた黒谷金戒光明寺の参道に茶店を設け、検校の遺徳を 偲び、琴の形を象った干菓子を「八ッ橋」と名付け販売したのが始まり と言われている。明治には多くの文豪が訪れた。



栗原邸

「歴史的風致形建造物 京都を彩る建物や庭園」

鴨東の文教地区としての近代の宅地開発の流れを汲む土地に建つ和風住宅で、その後の改修により8つの座敷と門や玄関を備え、もてなしの場として活用されていたことが伺える。近代の郊外開発の歴史と近代和風建築の歴史的意匠を現代に継承する。



大正期に建てられたと思われる近代数寄屋。座敷を中心とした間 取りから、居宅ではなく、接客のために建てられたと考えられる。

V119**3**15

[国登録文化財]







二館※ 藤井斉成会有鄰館収蔵庫※ 国登録

関西美術院※ 国登録

[市登録文化財]



国登録

藤井斉成会有鄰館第一館 市登録

■ 樹木

名称	天然記念物	保存樹	区民の誇りの木
イチョウ:京都大学(熊野寮)			♣左A01
クスノキ:京都大学(熊野寮)			♣左A02
ケヤキ:京都会館(ロームシアター京都)			♣ 左A04
ケヤキ:岡崎公園			♣左A05
クロマツ:岡崎通			♣左A06
ヒマラヤスギ:京都市美術館			♣左A07
ソメイヨシノ:琵琶湖疏水			♣左A08
クロマツ:金戎光明寺		指定あり	♣左B15
シマモクセイ:金戎光明寺			♣ 左B16
ムクノキ:熊野神社			♣左B19
ケヤキ:錦林小学校			▲ 左B20

景観の特性と形成方針 (京都市景観計画 抜粋・要約)

東山風致地区

【概況】

地区全体として、東山連峰を構成する銀閣寺山や大文字山、如意ケ嶽、稲荷山、深草、大日山、安祥寺山等の山並みや、吉田山等の緑が保全されている。また、山科北東(毘沙門堂)の山地では、林業による植林等が施され、緑豊かな森林となっている。

各地域の山ろく部の社寺境内地の社寺林や参道の樹林、天智天皇陵等の緑地、京都国立博物館、蹴上浄水場や深草墓園等の大規模敷地の樹木が、山地部の森林と一体となって量感のある緑地空間を形成している。

屋敷周りの生垣や庭木、敷地規模が比較的大きい住宅地における生垣や庭木等により、緑の豊かな地域環境となっている。

【良好な景観の形成に関する方針】

●岡崎公園一帯の和風建築による落ち着きのある環境や無鄰菴等から東山の借景岡崎公園一帯は、わが国でも有数の文化施設が集積した地域である。神宮道及び仁王門通沿道は、岡崎公園の諸施設とも関連して、近代的デザインで3階建て以上の堅牢建築が多く建つ。一方、山ろく部の住宅では緑豊かる石木 平安地宮地奈田郡 からの書の間の環境やお声がまれまったがる。

ここでは、平安神宮や庭園群からの借景空間の保全や南禅寺北西に広がる 邸宅群の景観の保全、総門に至る門前、仁王門通、神宮道、岡崎道や疏水 沿線等の沿道景観の整備、無鄰菴等から東山の借景を望む視線の方向とな る南禅寺参道における高さの抑制、意匠・形態等に重点を置く。



1) 岡崎公園東側の町 並み



2) 岡崎通の町並み

山並み背景型美観地区 (聖護院・吉田山周辺)

聖護院・吉田山周辺地域は、東は白川通、北は御蔭通と今出川通、西は京都大学、南は平安神宮、岡崎公園や琵琶湖疏水に囲まれた地域である。吉田山・黒谷には、吉田神社、真如堂、金戒光明寺等の社寺が立地し、それぞれ特徴的な景観を形成している。また銀閣寺道、東一条通、丸太町通から、沿道の社寺と一体に東山の山並みを眺望することができ、東山を身近に感じることができる。

こうした地域の景観特性の継承を、この地域の景観形成の基本方針とする。

このため、社寺周辺の建築物については、勾配屋根の和風基調の外観を 基本とし、敷地内の緑化を充実するなど、歴史的な町並み景観の保全を図 るとともに、東山山ろくの緑豊かな自然景観との調和に配慮する。



3) 丸太町通の町並み



4) 金戒光明寺西側の 町並み

岸辺型美観地区 (岡崎疏水)

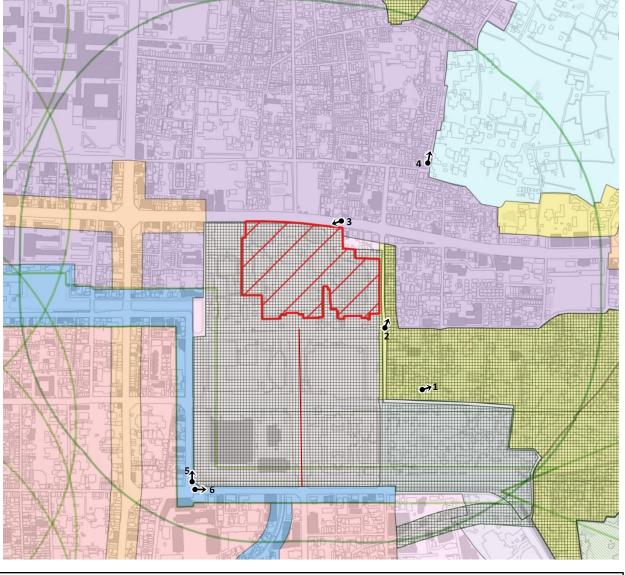
岡崎疏水地域は、岡崎を流れる琵琶湖疏水及び水路沿いの市街地を含む。琵琶湖疏水は、京都の近代化に貢献し、今日なお、京都の飲料水を供給する市民の生活に欠くことのできない水路である。この琵琶湖疏水は、豊かな水量と疏水沿いの柳や桜等の樹木と調和し、潤いと緑豊かで良好な岸辺景観を形成している。こうした景観特性の継承を、この地域の景観形成の基本方針とする。

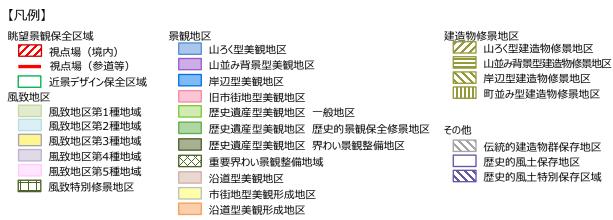
このため水路に面する建築物は、疏水沿いの樹木や東山の山並みと調和するよう、敷地内を積極的に緑化するように誘導する。また、地域の景観特性にかんがみ、現代建築物や洋風建築物は、岸辺や緑等の自然景観と調和するよう特に配慮し、良好な岸辺景観を保全する。





5)6) 疎水周辺の町並み





※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

- 1) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都·山城. 平凡社. 1997. p.598
- 2) 千宗室·森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館. 1994. p.248
- 3) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書. 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課. 2013. p.40
- 4) 同上、p.24
- 5) 同上、p.39
- 6) 同上、p.39
- 7) 同上、p.38
- 8) 同上、p.56
- 9) 同上、p.52
- 10) 千宗室·森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館. 1994. p.248
- 11) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書. 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課. 2013. p.56
- 12) 同上、p.39
- 13) 同上、p.27
- 14) 千宗室·森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館. 1994. p.248
- 15) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書. 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課. 2013. p.38
- 16) 同上、p.39
- 17) 同上、p.39
- 18) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.679
- 19) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書. 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課. 2013. p.78
- 20) 同上、p.78
- 21) 同上、p.40
- 22) 同上、p.41
- 23) 同上、p.24
- 24) 同上、p.986
- 25) 同上、p.41
- 26) 同上、p.41
- 27) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.986
- 28) 同上、p.135
- 29) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書. 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課. 2013. p.80
- 30) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.598
- 31) 同上、p.337
- 32) 同上、p.394
- 33) 同上、p.267-p.269
- 34) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.284
- 35) 同上、p.271
- 36) 同上、p.135
- 37) 同上、p.304
- 38) 同上、p.277